

戸塚一中だより

新宿区立戸塚第一中学校

3205-9672

戸山高校の先生による出前授業行われる

7月9日(金)5校時、3年生に戸山高校の佐藤弘善(国語)、谷口幸夫(英語)、中山昌之(数学)3先生による出前授業がありました。



国語は、昨年に引き続き佐藤先生による「漢文」の授業でした。高校の国語は「現代国語」「古文」「漢文」と3つに分かれ、専門的な授業になります。テーマは「臥薪嘗胆」。春秋時代の争いのなかで、敵を討つために苦労する家来の姿を分かりやすく話しながら漢文の奥深さを感じさせて下さいました。学習というより学問といった方がふさわしい「アッ」という間の50分でした。

国語の授業を受けた生徒の感想では「今、授業を終えて、改めて『高校進学への期待と楽しみ』が増えた気がします。温かい雰囲気、楽しく分かりやすい内容が、その理由だと思います。」「授業を受けてみて自分の思っていた高校の授業とは違いとても楽しかったです。最初は、漢文なんかに興味はなかったが、授業を受けているうちにとてもおもしろく感じるようになり、漢文というものはおもしろ

いものだと思えるようになりました。」など、高校や漢文に期待と興味を抱かせる授業でした。

英語の谷口先生の授業はハイペースで進む授業で、はじめは「高校の授業は大変だぞ!」と思わせるようなものでした。しかし、1.ウォームアップではBGMがかかり、2人1組で英語で自己紹介しあったり、会話しあう。2.マジカルクイズではジェスチャーゲームをやりながら、英語を使う楽しみを味わう。3.イーजीリスニングでは英語での簡単な質問に答えさせる。4.レストランでの会話では客とウェーター(ウェイトレス)が会話をする場面を想定し、相手や立場を変えながら会話をする。5.高校で使っているラーメンに関するプリントをくり返し読む。という流れで授業が進んでいくうちに、英語を使い、会話することが楽しくなるような工夫がありました。



生徒の感想にも「今まで私が経験してきた英語と違って、いろいろな人と会話するというとても面白いもので、『高校』と

いうことに不安を抱いていた私はとても安心しました。」「はじめはノートに何かを写して進める授業だと思っていましたが、リズムにのりながら言葉を覚える方法やペアを組んで実際に話してみるという方法だったので、勉強が苦手な私にも苦しまず楽しいものになりました。」とあり、知らず知らずのうちに英語を話すことに楽しさを覚えるという人が多かったようです。それだけ、綿密に計画された授業であったように思います。



数学の中山先生は「まずは、数学を楽しみましょう」といって授業が始まりました。はじめに、メビウスの輪について実演と説明があり、次は、表の中から数を見つけるマジックには2進法が使われているという話がありました。これらの

話は、生徒に数学への興味を抱かせるものになったようです。最後に名刺大の画用紙に同じL字の切れ目を入れたものを3枚ずつ配り、組み合わせて立体を造るという学習をしました。これには、チャイムが鳴るのも聞こえず、できあがるまで夢中に取り組む姿がありました。この授業を通して、「数学は楽しい」という気持ちが培われたように思います。「中山先生はとてもわかりやすく好奇心をくすぐるような話をしてくれました。中学生でもよくわかるように、図や表、実物を使っての授業は、とても面白く、そして笑いながら聞ける、すごく楽しいものでした。」「今回の授業を受けて私は改めて『数学は面白い』と感じました。『どうして、なぜ、そうなるのか』頭で考えたり、文章で説明されるより”自分で実際にやってみる”ということの大切さを学びました。最初のウォーミングアップから最後まで驚きばかりで、完全に数学に引き込まれた気がしました。」というのが生徒の感想でした。

お忙しいなか、毎年、戸塚一中の生徒のために授業して下さっている戸山高校先生方に感謝いたします。

一寸一言

42日間の長い夏休みが始まります。ご家庭でもいろいろと計画があるかと思いますが、生徒一人一人にとって有意義な毎日であることを願っています。

夏休みに向けて子どもたちに、「家族の一員としての自覚を持って、何か家での役割を果たそう」「この夏休みだからできる目標を持って、挑戦しよう」という話をしました。この2つがそれなりにできれば、毎日のはりのある生活ができるのではないかと思います。学期中は学校が主になり時間割にしたがった生活ができますが、夏休みになると毎日が自由になり、規則正しい生活ができなくなりがちです。

しかし、自由になる時間をどう自己管理するか、を学ぶこともこれから必要になります。いつまでも管理されなければ何もできないということでは大人になれません。そういう意味では夏休みは絶好のチャンスかも知れません。

